

川とともに生きる伝統芸術

# 鶺鴒匠

木曾川の犬山鶺鴒は、日本最古の歴史を持つ。江戸時代に犬山城主成瀬正親が幕府の御料鶺鴒として始めて以来、三百年の伝統を誇っています。現在の鶺鴒の技法は、鶺鴒平左衛門、七右衛門から始まる。一人で十二羽の鶺鴒をあつかい、かがり火をたき、三人一組となりホウホウと掛声勇ましく自在に鶺鴒をあやつり、アユをとる。この技法を犬山式鶺鴒といい、後に全国に広がっていったのです。鶺鴒は幕府から禄をうけ諸役を免ぜられるほどの特権が与えられ、優遇されていました。鶺鴒匠によってとられたアユは幕府と尾張公へ献上され、アユといえは犬山とさえいわれるほどの隆盛を極めたのです。しかし「殺生禁断の令」が発せられた九十年間の鶺鴒の中断は、鶺鴒匠にとって苦難の時代であり、多くの鶺鴒匠は職を失い、職業を変えていった。この時、長良川に移り住んだ鶺鴒匠が、今の長良川鶺鴒のもととなった。名勝犬山の鶺鴒



鶺鴒は木曾川の清流な水とともに、鶺鴒匠によって守り継がれてきたのです。今日も又古城犬山城に夕陽がしずむ頃、赤々と燃えるかがり火とともに鳥帽子に腰巻姿の鶺鴒匠の顔が火に映され、火のこが水面に散らばる。木曾川のたおやか



な流れに鶺鴒舟がゆれ、鶺鴒がアユを追う、まさに川とともに生きる日本の伝統文化。

水と昔話

## 竜宮淵

恵那市

次郎兵衛が「困った、困った」といつて歩いていた。「明日、むすこが嫁ごをもらおうというのにおわんが一つしかない。困った、困った」次郎兵衛は、腕組みをして考え込むようにして道を歩いていた。いくらか、独言をいっても、いくら考えてもないものはないのだから、いい思案が浮かぶはずがなかった。「次郎兵衛さ、次郎兵衛さ」と呼ぶ声が聞えた。次郎兵衛が気がつく、中野方川の竜宮(こん)淵岸に立っていた。しかし、あたりを見回しても、誰もいない。あまり考え込んで歩いていたので、誰かが呼ぶように思われたのかも知れない。そう思っ、また次郎兵衛は腕を組んで考え込んだ。「次郎兵衛さ、次郎兵衛さ」また呼ぶ声が聞えた。今度は本当である。声は川の中から聞えてくるらしい。次郎兵衛が耳をすますと「次郎兵衛さ、おわんが足らんんだら、今夜のうちに、おわんを一つ持ってきて。川のそばにおいでよ。そうして、明日の朝、もうべんこへきて見なさい」川の中の声はこういった。次郎兵衛は、とにかくいわれたとおりにしよう、川岸へおわんを一つ持ってきておいた。次の朝、だまされたのかも知れんと思いつきながら、それでも胸をどきどきさせながら、川岸までいって見た。すると、どうしてだけのおわんがちゃんと揃えておいてあった。このおかげで、次郎兵衛は、ほすかしい思いもせずに、むすこの結婚式をすますことができた。「ありがたい、ありがたい」といながら、次郎兵衛は、川の岸へ借りたおわんを置きにいった。この話が、いつか村中に広がって、村の中で、何か集まりがあると、おせん、おわん、その他なんでも、この川から借りることができるようになった。村の人たちは、川の中に住んでいる神さまは、どういう神さまか知らないが、ありがたいことじゃと、いつまでも手を合わせて拝んでいた。欲兵衛という欲の深い男がいた。村人からは嫌われ者になっているらしい。「返さんでもええわ」欲兵衛は始めから返す気持ちがなかったらしい。そのまま返さずに自分の物にしてしまった。それから、どれほど村の人たちが頼んでも、借りられなくなったという。恵那市史「はなしとつた」より



M I Z U S H I R U B E

# みずしるべ



新丸山ダムキャラクター しんまるくん

発行  
建設省中部地方建設局  
新丸山ダム工事事務所

## 2

建設省新丸山ダム工事事務所は地域の皆様や関連する方々との情報ネットワークとして情報誌「みずしるべ」を発行しております。「地域とダムと水」をテーマに内容をますます充実させていきたいと思っております。ご意見・ご感想がございましたらぜひお寄せ下さい。



貯水池の中ほどの深沢峡にかかる「五月橋」

### 新丸山ダム概要

新丸山ダム建設事業は、木曾川本川が濃尾平野に流れ出る手前の峡谷に設置されている丸山ダムを大規模に嵩上げて、洪水調節能力を大きく向上させようというものです。

我が国あるいは世界で大きな役割をになっている中部圏を支え、更に発展させてゆくための基盤施設として、木曾川の新たなカナメとして生まれかわる新丸山ダムは、極めて大きな役割を果たすこととなります。



建設省中部地方建設局  
新丸山ダム工事事務所  
〒505-03  
岐阜県加茂郡八百津町八百津3847

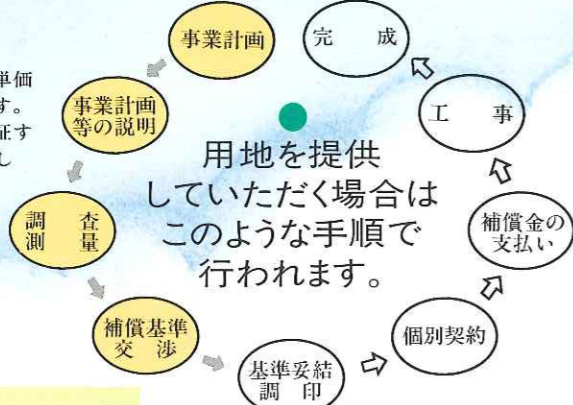


もしもしテレフォン  
新丸山ダムについてどんな事でも  
お気軽にお問い合わせ下さい。  
0574-43-2780(代)

# 新丸山ダムトピックス

用地補償基準の提示が7月29日に行なわれました。

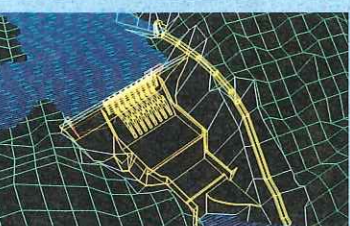
補償基準とはダム建設に関わる補償の単価や考え方を基準としてまとめたものです。家屋移転者の方々の生活再建を充分保証するものとなります。今後も引き続き話し合いがもたれます。



## ワーイ! スゴイナー!!

●南知多町小学校のみなさん、ダムを見学。

7月4日、八百津町と友好都市を結んでいる南知多町の小学生137名の皆さんが、見学に来てくれました。職員の説明に真剣に耳を傾け、口々からもれた「すごい!」の言葉がとても印象的でした。



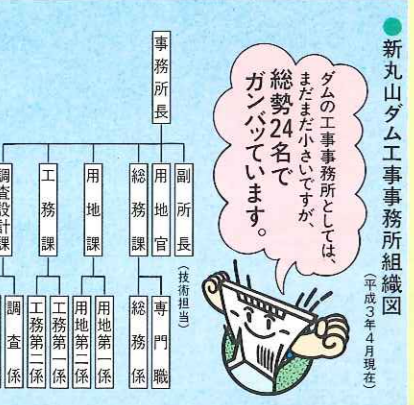
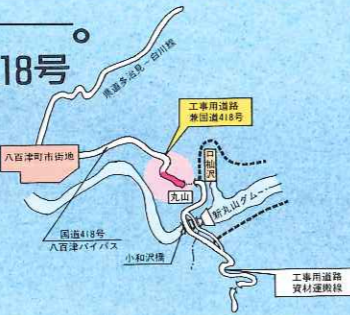
## 広報映画「新丸山ダム」ができました。

地域住民の方々にダム建設事業についてのご理解を深めて頂くために、広報映画を制作致しました。ビデオ(26分VHS)、16mm映画は無料で貸出し致しております。お気軽にご連絡下さい。

## 完成間近! 新油皆洞橋

工事用道路として使用する国道418号の工事が着々と進んでいます。

工事の都合上、通行止めの区間が発生し、皆様にはご迷惑をおかけする事と思われれますが、よろしくご協力お願い致します。



## 事務所の動き

- (平成3年4月以降)
- 平成3年度予算成立
- 4/11 新丸山ダム建設事業費17億円新組織として副所長・工務第二係を新設
- 4/26 八百津町補償交渉委員会が開かれ、二市二町の補償交渉委員会がでそろう。
- 7/1日 新庁舎の建設予定地きまる。(八百津町ファミリーセンター北側)
- 7/20日 新丸山ダム補償基準交渉委員会連合会設立
- 7/29日 補償基準を提示

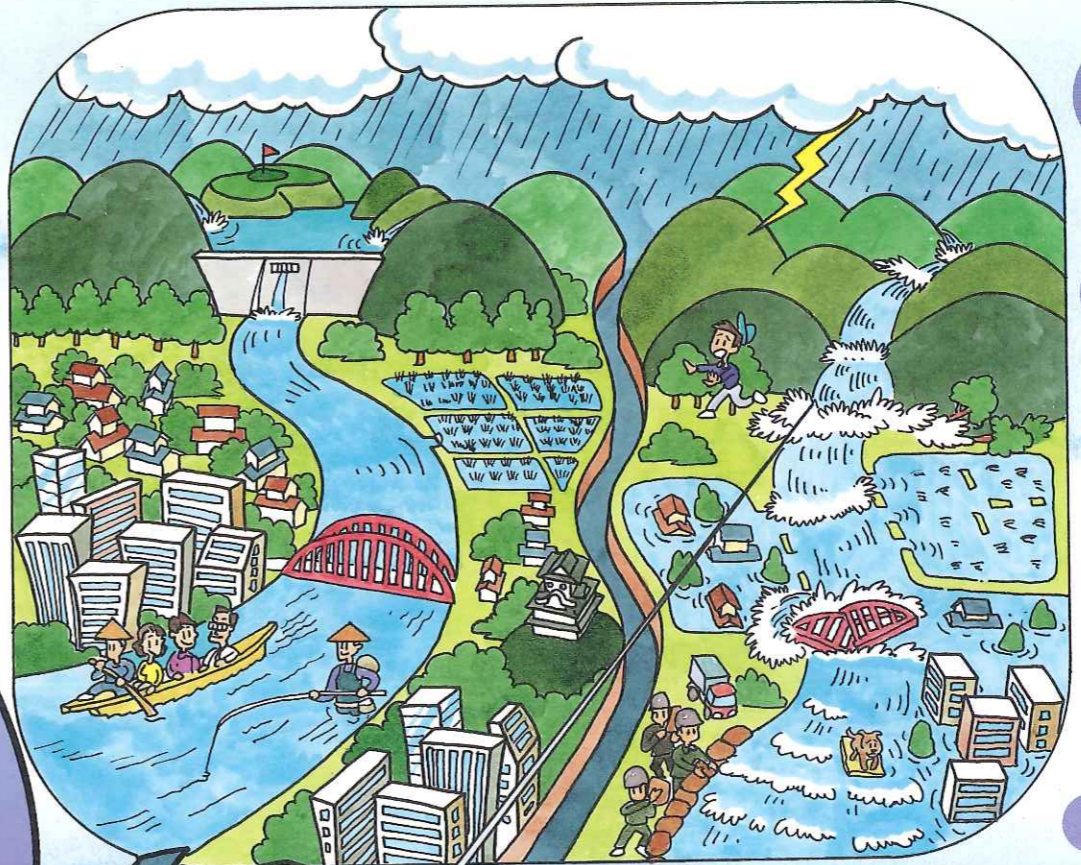
暮らしを支える新丸山ダム

# 新丸山ダムの役割

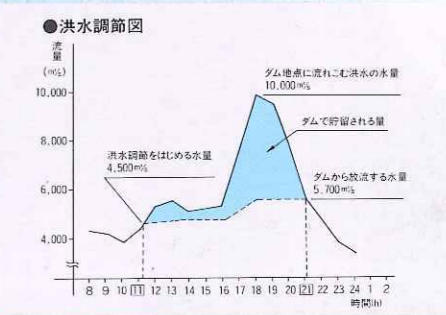
世界的な産業技術の中核圏域として発展しつづける濃尾平野。ここは木曾川の氾濫区域でもあります。人々の生命や財産を守り、我が国の産業技術の高い集積地域の形成に貢献する。これが新丸山ダムの役割です。



ダムの建設にあわせて、ダム周辺地域の道路や公共施設などが一層充実します。またレクリエーション施設も新設されることとなります。



大雨により発生した洪水をダムで貯留し、木曾川下流地域の住民の尊い生命や財産を守ります。(10,000㎥の洪水がおきたとしても、5,700㎥とします) 再び昭和58年9月の美濃加茂水害と同じぐらいの洪水が起きても新丸山ダムの建設により木曾川の氾濫を防ぎます。



洪水のとき、木曾川の水量をダムでどのようにコントロールするかを表わした例です。11時にダムにより洪水の貯留が始まり、18時にダム地点で10,000㎥/sの流入量に対して5,700㎥/s、約4割少なくして下流に流すことができます。新丸山ダムが治水の要であるといわれるわけは、ここにあります。



浸水した美濃加茂市街地

## 地域づくり

新丸山ダムの放流水を利用して、私達の生活に欠かせない電気を起こします。丸山・新丸山発電所(関西電力㈱)の発電容量は210,500kWとなり、その電気量は通常23万戸の家庭をまかなうことができます。



丸山発電所

木曾川流域で古くから利用されている水や、川の環境等を守るために、渇水時にはダムから水を放流します。(そのため新たに1,500万㎥の水が、貯留されます。)



日本ライン下り

## 川の流れを守る

今年(平成3年)は第8次治水事業五箇年計画策定の年です。

ダム建設は巨額の予算を集中的に必要とします。このため、国の予算における治水事業の所要額を増大させることが必要です。